

ドレスデン・フィルハーモニー 管弦楽団

Dresdner Philharmonie

<ミヒャエル・ザンデルリンク プロフィール>

ミヒャエル・ザンデルリンクは、近年、同世代の中で最も人気のある指揮者の一人として頭角を現している。これまでにチューリッヒ・トーンハレ管弦楽団、バイエルン放送交響楽団、ドレスデン国立歌劇場管弦楽団、ベルリン・コンツェルトハウス管弦楽団、シュトゥットガルト放送交響楽団、ベルン交響楽団、ストラスブル・フィルハーモニー管弦楽団、ネーデルラント・フィルハーモニー管弦楽団など有名オーケストラとの共演を重ね、2011/2012シーズンからはドレスデン・フィルハーモニー管弦楽団の首席指揮者を務めている。

2006年から2010年まではポツダム・カンマーアカデミーの芸術監督兼首席指揮者を務め、世界各地のコンサートホールに登場した。同アンサンブルとは、いくつかのCD録音も行っており、その一つにはソニー・クラシカル・レーベルからリリースされたドミトリー・ショスタコーヴィチの「室内交響曲集」がある。2010年には、フランクフルト・アム・マインで「スカイライン・シンフォニー」というプロジェクトを立ち上げた。これは、ヨーロッパの主要なオーケストラで活躍する演奏家たちが、ゲーテ大学のキャンパスに集結し、非常に親しみやすくカジュアルな形式で演奏を行うという、特別なコンサート・プロジェクトである。

ミヒャエル・ザンデルリンクは幼少期よりチェロの手ほどきを受け、音楽の道に進んだ。チェリリストとしていくつかのコンクール（ミュンヘンARD国際音楽コンクール、ライプツィヒ・バッハ国際コンクール、マリア・カナルス・バルセロナ国際音楽演奏コンクール）で好成績を収めた後、わずか19歳でクルト・マズアに認められ、ライプツィヒ・ゲヴァントハウス管弦楽団の首席チェリリストに就任した。その後、ベルリン放送交響楽団の首席チェリリストに就任し、長年にわたり同ポストを務めた。また、チェロのソリストとしては、バイエルン放送交響楽団、パリ管弦楽団、ボストン交響楽団といった、ヨーロッパやアメリカのトップレベルのオーケストラに客演している。さらに、後進の育成にも積極的に取り組んでおり、フランクフルト音楽芸術大学（ヘッセン州）ではチェロ科の教授を、ドイツ弦楽フィルハーモニーでは芸術監督を務めている。

<ドレスデン・フィルハーモニー管弦楽団 プロフィール>

2010年、ドレスデン・フィルハーモニー管弦楽団は創設140周年を迎えた。1世紀を超える歴史の中で、同オーケストラは常に優れた首席指揮者を擁し、世界的名声を誇るソリストや客演指揮者たちと共演を重ねてきた。現在の首席指揮者ラファエル・フリーベック・デ・ブルゴスが、2004

株式会社ジャパン・アーツ

<http://www.japanarts.co.jp>

〒150-8905 東京都渋谷区渋谷 2-1-6

TEL: 03-3499-8100 / FAX: 03-3499-8102

JAPAN ARTS CORPORATION

<http://www.japanarts.co.jp>

2-1-6, Shibuya Shibuya-ku,

Tokyo JAPAN 150-8905

TEL: 81-3-3499-8091 FAX: 81-3-3499-8092

年に3週間に及ぶアメリカ・ツアーを行った際には、ニューヨークの批評家たちから「世界有数のエリート・オーケストラ」と大絶賛された。これは外国のオーケストラがアメリカで受けた批評としては、異例とも言える高い評価であった。

[草創期]

ドレスデン・フィルは1870年に創設されたが、この年は奇しくも、ドレスデン市初の市民コンサートホール「ゲヴェルベハウス・ザール」が公式にオープンした年であった。宮廷楽団を前身とし、貴族階級のために演奏を行ってきたシュターツカペレ・ドレスデン（ドレスデン国立歌劇場管弦楽団）とは異なり、ドレスデン・フィルは中流階級の市民の文化から生まれたオーケストラである。

ドレスデン・フィルのルーツは、「ラーツ・ムジーク」という名の市民アンサンブルが結成された450年前に遡る。宮廷や貴族階級の影響を受けることなく生まれたこのアンサンブルは、以後19世紀後半まで活発な活動を続けていたが、創設当初より、定期的に演奏会を開くための本拠地が無かった。

しかし1870年、ゲヴェルベフェライン（科学、工学、経済学の知識の普及を目的とした組織）が多目的ホールを建設。この「ゲヴェルベハウス・ザール」の誕生が、ドレスデン・フィルの実質的な歴史の始まりとなった。1870年のオープンから、第二次大戦で破壊されるまで、同ホールはドレスデン・フィルの演奏会場として利用され、新本拠地を獲得した当初、ドレスデン・フィルは、「ゲヴェルベハウス・カペレ」と呼ばれていた。「フィルハーモニー」の名称が最初に使われたのは、1908年「メイン・フィルハーモニー・コンサート」と題した演奏会を行った時である。翌1909年、アメリカ・ツアーを行った際に、「ドレスデン・フィルハーモニー管弦楽団」という名称を用いたことで、この言葉は特別な意味を持つことになり（ちなみにドレスデン・フィルは、アメリカ・ツアーを行ったドイツ最初のオーケストラのひとつ）、1915年からこの現名称が正式に用いられるようになった。ドレスデン・フィルは第二次世界大戦後、いくつかの演奏会場を臨時の本拠地としていたが、1969年に市のダウンタウンに「文化宮殿」というホールが完成してからは、ここを活動の拠点とした。

[名指揮者たちのもとで世界的な名声を獲得]

ドレスデン・フィルは創設以来、常に名だたる名指揮者たちを迎えてきた。1930年代になると世界的な名声を博すようになったが、これは名指揮者パウル・ファン・ケンペンのリーダーシップに因るところが大きい。この成功は、多くの巨匠たちを同オーケストラに惹き付け、アルトゥール・ニキシュ、ヘルマン・アーベントロート、ハンス・クナッパーツブッシュ、フリッツ・ブッシュ、エーリッヒ・クライバー、ヨーゼフ・カイルベルトなど、そうそうたる面々が客演した。また第二次世界大戦後の再建については、当時の首席指揮者ハインツ・ボンガルツの名が、その他の特筆すべき首席指揮者としては、クルト・マズアの名が挙げられる。

[1990年、東西ドイツの統一]

1990年、東西ドイツが統一されると、ドレスデン・フィルにも新しい時代が訪れた。旧東ドイツの体制下では多くの制約があったにもかかわらず、ドレスデン・フィルの芸術的レベルは向上を続けていた。その卓越した芸術性ゆえに、同オーケストラは旧体制下においても、世界各地で数多くのコンサート・ツアーを行い得たのである。しかしながら外貨の不足から、国際レベルの芸術的交流を行うことは、事実上難しかった。本当の意味で、ドレスデン・フィルが潜在能力を発揮し、組

株式会社ジャパン・アーツ

<http://www.japanarts.co.jp>

〒150-8905 東京都渋谷区渋谷 2-1-6

TEL: 03-3499-8100 / FAX: 03-3499-8102

JAPAN ARTS CORPORATION

<http://www.japanarts.co.jp>

2-1-6, Shibuya Shibuya-ku,

Tokyo JAPAN 150-8905

TEL: 81-3-3499-8091 FAX: 81-3-3499-8092

織的に力を強化できる、新しいチャンスが到来したのは、東西ドイツ統一後のことであった。

[ミシェル・プラッソンからマレク・ヤノフスキへ]

1994/95年シーズンには、世界的名声を誇るミシェル・プラッソンが首席指揮者に就任。フランスの主要作曲家の作品が重点的に取り上げられるようになった。1999年にプラッソンの任期が終ると、2001年からは彼に勝るとも劣らない名匠マレク・ヤノフスキが首席指揮者の座を引き継いだ。ドイツの伝統文化に造詣が深く、演奏経験も豊富なヤノフスキの就任は、ドレスデン・フィルの歴史の中でも、とりわけ歓迎された出来事であった。

[ラファエル・フリーベック・デ・ブルゴスを迎えて]

2003/04シーズンには、ラファエル・フリーベック・デ・ブルゴスが首席客演指揮者として招かれ、翌年首席指揮者に就任した。豊富な経験とカリスマ性を持つ彼は、オーケストラと極めて良好な関係を保ちつつ、ドレスデンでのコンサート、海外ツアー、レコーディングなどで、次々と成功を収めていった。彼がまず力を注いだのはオーケストラが長い年月をかけて培ってきた、素晴らしいドイツの交響曲のレパートリーを紹介することだった。これらのレパートリーは、伝説的な「ザクセンの音」とまで呼ばれ、これこそドレスデン・フィルがその世界的名声を勝ち得た所以でもある。彼の任期の初期に、ドレスデン・フィルはリヒャルト・シュトラウスの交響詩『ドン・ファン』『テイル・オイレンシュピーゲルの愉快ないたずら』『ドン・キホーテ』を録音して高い評価を博し、これに続く『アルプス交響曲』『薔薇の騎士 組曲』の録音で、評論家たちからの絶賛を得た。また、ワーグナー、ブルックナー、ブラームス作品の録音や、オーケストラの有名なアンコール曲を集めた作品集『アンコール!』の録音でも、“ドレスデン・フィル版”ともいべき決定的演奏を残している。

ドレスデン・フィルは、毎年数々の客演や世界各地へのツアーを行い、その芸術的資質を証明し続けている。2004年のフリーベック・デ・ブルゴスとのスペインツアーでは、地元の有力紙「エル・ディアリオ・モンタネス」に「史上最高のドイツ・オーケストラの一つ」と評されたほか、3週間に及ぶアメリカ・ツアーも絶賛を博し、ニューヨークの批評家たちに「世界最高のオーケストラの一つ」と報道された。また、数週間に及んだ2005年の南米ツアーの大成功に続いて、スイス全土での公演（2006年）、アメリカ・ツアー（2008年）、日本/韓国ツアー（2008年）もまた成功をおさめ、フリーベック・デ・ブルゴスとドレスデン・フィルの相性の良さを改めて実証する結果となった。

*プロフィールの一部を使用する場合、日数が経過している場合は、ジャパン・アーツの校正チェックをお受け頂きますようお願い申し上げます。

株式会社ジャパン・アーツ

<http://www.japanarts.co.jp>

〒150-8905 東京都渋谷区渋谷 2-1-6

TEL: 03-3499-8100 / FAX: 03-3499-8102

JAPAN ARTS CORPORATION

<http://www.japanarts.co.jp>

2-1-6, Shibuya Shibuya-ku,

Tokyo JAPAN 150-8905

TEL: 81-3-3499-8091 FAX: 81-3-3499-8092

Dresdner Philharmonie

In recent years, Michael Sanderling has become one of the most sought-after conductors of his generation. He has appeared with such renowned orchestras as Zurich's Tonhalle-Orchestra, the Sinfonieorchester des Bayerischen Rundfunks, the Staatskapelle Dresden, the Konzerthausorchester Berlin, the Radio-Sinfonieorchester Stuttgart, the Berner Sinfonieorchester, the Orchestre Philharmonique de Strasbourg, and the Nederlands Philharmonisch Orkest. He has been Principal Conductor of the Dresdner Philharmonie since the 2011/2012 season.

As the Artistic Director and Principal Conductor of the Kammerakademie Potsdam, from 2006 to 2010 Sanderling appeared at international concert venues and recorded several CDs with the ensemble, including the chamber symphonies of Dmitry Shostakovich on the SONY Classical label. In 2010 he founded "Skyline Symphony" in Frankfurt/Main a collaboration of Europe's leading orchestra players who join together for special concert projects on the campus of the Goethe University to perform music in a highly approachable and informal setting.

Michael Sanderling's early musical training was on the cello. After successfully participating as a cellist in several competitions (ARD International Music Competition Munich, Bach Competition Leipzig, Maria Canals Competition Barcelona), when only 19, Sanderling was engaged by Kurt Masur as principal cellist with the Leipzig Gewandhausorchester. Sanderling was later also principal cellist with the Rundfunk-Sinfonieorchester Berlin for many years. He has made guest appearances as a cello soloist with top-flight orchestras across Europe and the US, from the Sinfonieorchester des Bayerischen Rundfunks and the Orchestre de Paris to the Boston Symphony Orchestra. Michael Sanderling also actively fosters young talent both as a cello professor at the Frankfurt University of Music and Performing Arts in Hessen but also as the Artistic Director of the Deutsche Streicherphilharmonie.

2011-2012 Please do not use older versions of this biography.

In 2010 the Dresden Philharmonic marked the 140th anniversary of its founding. In a period spanning more than a century, the ensemble has worked with outstanding principal conductors and countless internationally respected soloists and guest conductors. When the orchestra's current Principal Conductor Rafael Frühbeck de Burgos led the Dresden Philharmonic on a three-week tour of the United States in 2004, the New York critics celebrated the ensemble as one of the world's elite orchestras a tremendous plaudit of approval for a foreign orchestra which is seldom heard in the U.S. where excellent orchestras abound and recognition of the systematic and ongoing work of the orchestra over the years.

株式会社ジャパン・アーツ

<http://www.japanarts.co.jp>

〒150-8905 東京都渋谷区渋谷 2-1-6

TEL: 03-3499-8100 / FAX: 03-3499-8102

JAPAN ARTS CORPORATION

<http://www.japanarts.co.jp>

2-1-6, Shibuya Shibuya-ku,

Tokyo JAPAN 150-8905

TEL: 81-3-3499-8091 FAX: 81-3-3499-8092

Earliest beginnings

The founding of the Dresden Philharmonic in 1870 coincided with the official opening of the city's first civic concert hall, the Gewerbehaus-Saal. Unlike the Sächsische Staatskapelle, which was originally the orchestra of the court and thus a performing ensemble for the aristocracy, the Dresden Philharmonic emerged from the city's middle-class music culture. The ensemble's roots thus date back 450 years to the first civic music ensemble, the Ratsmusik, which came into being outside the influence of the court or nobility and flourished far into the 19th century.

However, the basis for a regular presentation of concerts was initially missing, a performance hall, until in 1870 a Gewerbeverein or trades and crafts association devoted to proliferating scientific, technological and economic knowledge built a building which could serve as a venue for several types of occasions. When the Gewerbehaus-Saal was dedicated on November 29, 1870, which was used for concerts until its destruction in the Second World War, the actual history of the Dresden Philharmonic first began. At first the orchestra was referred to as the Gewerbehauskapelle. The term "philharmonic" was first used to refer to the ensemble in 1908 during a performance of "the main philharmonic concerts". The title took on special meaning in 1909 when, as one of the first German orchestras to do so, the ensemble undertook a major tour of the United States billed as "The Dresden Philharmonic Orchestra." The name Dresdner Philharmonisches Orchester began to be officially used starting in 1915. After performing in various temporary quarters in the years following World War II, the Dresden Philharmonic made its permanent home in the city's downtown Cultural Palace starting in 1969.

International fame under the baton of famed conductors

The Dresden Philharmonic has worked with the most eminent conductors in each historical period since its founding. The orchestra gained worldwide fame in the 1930s, with much credit going to the leadership of Paul van Kempen. This in turn attracted the great conductors of the time to appear in concert with Philharmonic, including Arthur Nikisch, Hermann Abendroth, Hans Knappertsbusch, Fritz Busch, Erich Kleiber and Joseph Keilberth. The work of Heinz Bongartz as Principal Conductor was essential in rebuilding the orchestra in the years following World War II. Among other conductors, Kurt Masur served as Principal Conductor of the Dresden Philharmonic before later accepting an appointment to head the Gewandhaus Orchestra and ultimately serving as Music Director of the New York Philharmonic from 1991 to 2002.

Germany reunited in 1990

A new era began when a divided Germany was reunited in 1990. The artistic level of the orchestra had continued to improve despite the limiting circumstances of the GDR years - artistic excellence

株式会社ジャパン・アーツ

<http://www.japanarts.co.jp>

〒150-8905 東京都渋谷区渋谷 2-1-6

TEL: 03-3499-8100 / FAX: 03-3499-8102

JAPAN ARTS CORPORATION

<http://www.japanarts.co.jp>

2-1-6, Shibuya Shibuya-ku,

Tokyo JAPAN 150-8905

TEL: 81-3-3499-8091 FAX: 81-3-3499-8092

which allowed the orchestra to undertake many concert tours throughout the world. However, financial circumstances - the lack of a freely convertible currency - prevented artistic exchange at the international level. After German reunification entirely new opportunities presented themselves for truly cultivating the Dresden Philharmonic's potential and systematically building on the orchestra's strengths.

Michel Plasson - Marek Janowski

From the 1994/95 concert season the internationally acclaimed Principal Conductor Michel Plasson led the Philharmonic, a collaboration which resulted in a strong focus on key French composers on the orchestra's concert programs.

In 1999 Michel Plasson's tenure came to an end. In 2001 an equally renowned conductor, Marek Janowski, became Plasson's successor. Deeply rooted in German tradition and familiar with the performance practice of leading orchestras in all the world's major music centers, his coming to the Philharmonic was a particularly welcome turn of events.

Rafael Frühbeck de Burgos

For the 2003/04 season Rafael Frühbeck de Burgos was named Principal Guest Conductor and a year later became Principal Conductor. His experience conducting the best orchestras in the world and his personal charisma led to a highly successful partnership with the orchestra, both concerts performed in Dresden, on tour and in the international music recording industry. Rafael Frühbeck de Burgos primarily presents the long-cultivated artistry of his Dresden orchestra with outstanding German symphonic repertoire which brings out the legendary "Saxon sound" upon which the orchestra's excellent international reputation was founded. At the beginning of his tenure with the orchestra, the orchestra recorded highly acclaimed versions of Richard Strauss's Don Juan, Till Eulenspiegel and Don Quixote. These productions were followed by a recording of Strauss's Alpensinfonie (An Alpine Symphony) and the Rosenkavalier Suite, which also met with highest praise from record critics. Further recordings such as works by Wagner, Bruckner and Brahms as well as the orchestra's "Encore!" release featuring famous orchestral encores round off the "Dresdner Philharmonie" edition.

Each year the Dresden Philharmonic also offers proof of its artistic abilities in numerous guest performances and concert tours. In 2004 Rafael Frühbeck de Burgos and the orchestra performed on tour in Spain where the newspaper "El Diario Montañés" praised the orchestra as "one of the best German orchestras of all time." Performances during a three-week tour of the United States also met with the highest praise: feared New York critics heralded the Dresden Philharmonic as one of the world's finest. The orchestra's tour of South America lasting several weeks in 2005 was also a rousing success, as were the tours throughout Switzerland (2006), the USA (2008) and Japan/Korea (2008), proving once again the excellent partnership shared by the Dresden Philharmonic and its Principal

株式会社ジャパン・アーツ

<http://www.japanarts.co.jp>

〒150-8905 東京都渋谷区渋谷 2-1-6

TEL: 03-3499-8100 / FAX: 03-3499-8102

JAPAN ARTS CORPORATION

<http://www.japanarts.co.jp>

2-1-6, Shibuya Shibuya-ku,

Tokyo JAPAN 150-8905

TEL: 81-3-3499-8091 FAX: 81-3-3499-8092

Conductor Rafael Frühbeck de Burgos.

2015/16 season only. Please contact Japan Arts if you wish to edit this biography.

株式会社ジャパン・アーツ
<http://www.japanarts.co.jp>
〒150-8905 東京都渋谷区渋谷 2-1-6
TEL: 03-3499-8100 / FAX: 03-3499-8102

JAPAN ARTS CORPORATION
<http://www.japanarts.co.jp>
2-1-6, Shibuya Shibuya-ku,
Tokyo JAPAN 150-8905
TEL: 81-3-3499-8091 FAX: 81-3-3499-8092